

人口構造の変化及び男女差からみた 米国大統領選挙をめぐる 二大政党の 政治基盤の変化

巖 震 生

(台湾・国立政治大学国際関係研究センター米欧研究所研究員)

【要約】

依然とした経済の低迷、現職の大統領に極めて不利な高い失業率という状況下で、オバマ大統領が順当に再選を果たしたことは、経済問題が必ずしも選挙の動向をリードするとはかぎらないことを明らかにした。2012年の選挙結果が示すその重要な意味は、米国の選挙人団制度、人口構造の変化、男女差が民主党候補の勝因となったことである。民主党はマイノリティー、女性、若者層、リベラル派、同性愛者を支持する有権者から圧倒的な支持を得ており、アジア系についてみると、近年の大統領選挙では、7割が共和党を支持していたにもかかわらず、今選挙では7割が民主党支持へと転換している。両党の政治基盤に変化が起きており、昨年の大統領選挙はアジア系の政党再編成選挙であったと位置づけることさえできる。

キーワード：政党再編成選挙、選挙人のロック、男女差、マイノリティーの結束

一 はじめに

米国は典型的な二大政党政治の民主主義国家であり、建国当初から二つの異なるイデオロギーによる競争が展開されてきた。両党は米国の歴史上、異なる時期に、それぞれ長期的な優勢を具え、支持者層の動きや転向に合わせて、いわゆる政党再編成選挙（Re-aligning Election）の局面を迎え、政党構造に変化が生じ、ある党が隆盛期を迎えるという過程を経てきた。隆盛期であっても、一党がすべての選挙に勝利できるわけではないが、次の政党再編成選挙を迎えるまでその優勢は保たれ、そして徐々に別の政党にとって代わられる。米国政治を研究している研究者は、歴史的発展に基づいて社会変化の脈略を把握し、正確な選挙データを基礎に、政党再編成選挙が生じる原因とその意義を判断しなければならない。経済状況が芳しくない状況下で、オバマ大統領が再任を果たしたことは、民主党が現在、基本的な優勢にあることを意味するのか、また、共和党が何らかの調整をしないのであれば、共和党には長期間反対勢力に甘んじる用意があるといえるのか、更には2012年にオバマ大統領が順当に再任を果たしたことから、2008年の大統領選挙を政党再編成選挙とみなすことができるのかについて、本稿では、人口構造の変化、男女差から、現在の共和党が直面するジレンマについて論じ、政党再編成選挙が既に生じたのか否かを検証する。

二 再編成理論、政党再編成選挙、米国二大政党政治と盛衰の時期

再編成理論（Re-alignment Theory）は時代性を具えた米国政治理論

の一つであり、20世紀中頃にキー（V. O. Key）が論じた決定的選挙（Critical Election）が元となっている¹。彼は、米国の歴史上、ある種の選挙は、有権者の政治に対する関心が非常に強く、参与レベルも相対的に高く、且つ、選挙結果も過去の有権者構造で見られた意見の相違とは異なる変化を見せ、こうした類の選挙において見られる投票の再編成は、その後何回かの選挙においても継続的に観察できると考えた²。いわゆる投票の再編成は、実際には政党連合（Party Coalition）にかかる有権者の基盤に変化が生じたことを反映しており、大規模な支持基盤の移動が政党再編成選挙を形成することとなり、これが即ちキーが言うところの決定的選挙である。こうした移動は、長期的に二大政党制となっている米国においては、稀にしか見られないが、一旦変化が生じると、20～30年の周期で循環し、ここから米国二大政党の盛衰の過程を論証できる。

米国建国当初、初代大統領ジョージ・ワシントン（George Washington）の在任中には、政府の権力分配について異なる考えを持つ二つの政治グループ－連邦主義者（Federalists）と反連邦主義者（Anti-Federalists）－が存在した。前者は、強い連邦政府を主張し、その代表人物は、米初代財務長官アレクサンダー・ハミルトン（Alexander Hamilton）で、他方、後者は州権を重視し、連邦主義者が権力を持ちすぎることに対抗し、その代表的人物としては米初代国務長官トーマス・ジェファソン（Thomas Jefferson）が挙げられる。

¹ V. O. Key, "A Theory of Critical Elections," *Journal of Politics*, Volume 17, Number 1 (February 1955), pp. 3~18. もう一つの重要な関連著作に次の書籍がある：Walter Dean Burnham, *Critical Elections and the Mainsprings of American Politics* (New York: W. W. Norton, 1971).

² V. O. Key, *ibid.*, p. 4.

連邦主義者は1800年の大統領選挙に負けると、長く低迷し、1830年代中頃から1850年代初期にホイッグ党（Whig Party）として再び浮上した。反連邦主義者はまず、民主共和党（Democratic Republican Party）となり、その後国民民主党（National Democratic Party）を経て、現在の民主党（Democratic Party）となった。現在の米国の二大政党政治は1856年に結党した共和党（Republican Party）と民主党の競争が起源となっており、当然ながら共和党の前身はホイッグ党である。

1860年、エイブラハム・リンカーン（Abraham Lincoln）が大統領に当選し、1932年にハーバート・フーヴァー（Herbert Hoover）が大統領再選に失敗するまでの72年間は共和党の最盛期であり、同期間、民主党は僅か2名の大統領ーグローバー・クリーブランド（Grover Cleveland）とウッドロウ・ウィルソン（Woodrow Wilson）ーしか送りこむことができず、民主党の執政期間は計16年で、残り56年は共和党政権であった。

しかし、ホイッグ党が再起してから1896年までの60年間、米国では二大政党の力が比較的均衡していた時代であった。1836年以前、民主党とその前身は優勢にあり、1860年から19世紀末において、民主党は大統領を僅か1名しか送りこめなかったが、二大政党の得票率からすれば非常に接近しており、拮抗していた。1896年に民主党の大統領候補ウィリアム・ジェニングス・ブライアン（William Jennings Bryan）が敗れると、共和党の優勢が顕著になった。

1932年から1968年までの36年間、共和党は1名しか大統領に送りこめず、ドワイト・アイゼンハワー（Dwight Eisenhower）大統領が政権に就いた8年間を除く残り28年間のホワイトハウスの主は民主党の大統領であった。1968年にリチャード・ニクソン（Richard Nixon）が大統領に当選し、1992年にジョージ・ブッシュ（George

Bush) 大統領がビル・クリントン (Bill Clinton) に負けるまでの 24 年間は共和党の全盛期で、民主党ではジミー・カーター (Jimmy Carter) 大統領が僅か 4 年間政権に就いただけである。過去 20 年における政党の発展過程については、まだ時間が必要で、将来の歴史学者に結論をゆだねるが、我々は既に、政党の有権者構造の変化、共和党の支持基盤に生じた変化を感じており、ここからすれば民主党が次の盛隆期に入った可能性もある。

内戦前の米国においては、民主党とホイッグ党、及び後の共和党の最大の違いは、連邦政府の役割に対する認識の違い、これに派生する経済政策や奴隷問題への態度にあった。民主党はもともと小さな政府と自由貿易を主張し、奴隷問題については道徳的な議論はあるものの各州に決定をゆだね、連邦政府は干渉すべきでないとした。奴隷問題をめぐって党内に異なる意見があったため、民主党は最終的に 1860 年に分裂し、これを機に共和党が台頭した。内戦後の民主党は主に、南部の各州及び西部の農業を主産業とする州を支持基盤とし、他方の共和党は東部、中西部の工業を主産業とする州や太平洋沿岸のカリフォルニア州を主要勢力範囲とし、基本的に内戦前の自由州 (Free States) と奴隷州 (Slave States) の対立構造をある程度反映していた。19 世紀末と 21 世紀初期の選挙人団 (Electoral College) の得票数を比較すると、驚くべきことに両党を支持する重要な州がほぼ入れ替わっていることが分かり、現在の共和党は南部と西部の各州で圧倒的な優勢にあり、民主党は東岸と太平洋沿岸が鉄板選挙区で、中西部一帯でも比較的競争力を具えていた。

1932 年の選挙は政党再編成選挙と呼ばれ、共和党はもともと都市部で優勢にあったが、新移民の絶え間ない増加や黒人の転向によって変化が生じ、民主党がマイノリティーグループ、新移民、都市部、北部の解放派、南部の保守派から成る多数派となった。うち前者の

いくつかの選挙区では政府の役割、経済問題、社会福祉政策において共通認識に達し、後者からは歴史的な感情から支持を集めた。選挙に勝利したフランクリン・ルーズベルト (Franklin Roosevelt) 大統領の在任期間はニューディール (New Deal) と称され、ニューディール連合 (New Deal Coalition) と呼ばれる支持基盤を構築した。

民主党は1950-1960年代に公民権運動 (Civil Rights Movement) を支持したため、南部の白人、特に保守派の支持を失った。リンドン・ジョンソン (Lyndon Johnson) 大統領が公民権法に署名したことは、南部の政治基盤を共和党に譲ったことに等しく、1932年以来、民主党が維持してきたニューディール連合を崩壊させたと言われている。元々、連邦政府が米国の工業化や現代化を支持すると主張していた共和党は社会福祉国家 (Social Welfare State) に反対し、小さな政府、減税、家庭の価値を主張した。

1968年、南部の各州が、州権 (state's rights) を主張する第三勢力のジョージ・ウォレス (George Wallace) に投票すると、民主党に対する南部地方の白人の支持が揺らぎ始め、共和党が徐々に同地域を飲み込み、新たな鉄板選挙区を構築した。1980年、ロナルド・レーガン (Ronald Reagan) が大統領に就任すると、同選挙は脱編成選挙 (De-aligning Election) とみなされた。南部の白人が共和党に転向し、後者が選挙人投票 (Electoral Votes) でもかなりの優勢に立ち上がったが、民主党は下院での優勢を依然として保ち、1994年になって共和党が逆転した。民主党は1964年から2000年の期間、3名の大統領—ジョンソン、カーター、クリントン—を政権に送り込んだが、彼らはそれぞれテキサス州、ジョージア州、アーカンソー州の出身であり、ここからも、民主党は自州の代議員に頼って一部、或いは南部の選挙人票を獲得しなければ勝てないと説明することができる。

2008年のオバマの当選は、ジョージ W. ブッシュ (George W. Bush)

大統領がその任期中、ひっきりなしに戦争を起こし、また金融危機を招いた結果でもあるが、彼は過去 50 年において初めての南部出身ではない民主党大統領である。オバマ大統領が再選を果たしても、南部及び西部の各州は依然として共和党の大本営であるが、長期間にわたって後者の鉄板選挙区であったバージニア州とノースカロライナ州で票が揺らいているほか、西部のコロラド州、ニューメキシコ州、ネバダ州等の浮動票が多い州（Swing States）でも民主党に票が流れる傾向が見られた。

三 オバマ大統領の勝因

2012 年にオバマ大統領が再選を果たした勝因は、当然ながら輝かしい政治成果によるものではない。実際には、有権者の多くはミット・ロムニー（Mitt Romney）のほうが、オバマより米国の経済問題を解決するに相応しいと考えていたが、結果的にはオバマが一般投票及び選挙人投票のいずれにおいても明らかに抜きん出ている。個人的な要素以外に、選挙広告もまた投票行為に影響を与え、最後には予測不可能な自然災害が選挙戦を混乱させ³、支持率を上げかけていたロムニー候補の勢いを押し折った。しかし、最終的に選挙結果に影響を与えたのは、以下の構造的な要因だろう。

第一に、米国の大統領選挙は選挙人団によって間接的に選出される。各州の選挙人票はその上院、下院の総和で、少なくとも 3 票、最も多いカリフォルニア州で 55 票となっており、選挙区方式を採用しているメイン州とネブラスカ州を除き、各州で勝った一人の候補

³ Adam Nagourney, Ashley Parker, Jim Rutenberg and Jeff Zeleny, “How a Race in the Balance Went to Obama,” *New York Times*, November 7, 2013, <http://www.nytimes.com/2012/11/08/us/politics/obama-campaign-clawed-back-after-a-dismal-debate.html?pagewanted=all>.

者がその州の選挙人団の票を総取りする。現在の政党の分極化（Polarization）においては、選挙人団制度は民主党の大統領候補者に有利で、つまり、支持基盤であるカリフォルニア州、ニューヨーク州、イリノイ州の選挙人票の総数が共和党より多いため、浮動票が多いいくつかの州で勝利を収めさえすれば、多数の選挙人票を獲得できる。よって、民主党が掌握しているいわゆる選挙人のロック（Electoral Lock）は、そう簡単には崩れないであろう⁴。

第二に、米国の人口構造の変化が挙げられ、特にヒスパニック系とアジア系人口の増加が指摘でき、この二つのマイノリティーグループから僅か3割しか得票できなかった共和党は極めて不利である。後者はもう一つのマイノリティーグループであるアフリカ系からも長らく僅か1割しか支持を得られておらず、こうしたマイノリティーグループの人口増加速度が白人のそれを上回っている状況下では、選挙戦において民主党が優勢を占める。アフリカ系は元々民主党の鉄板区で揺るぎがたいが、ヒスパニック系について見ると、共和党と民主党の差が縮小したこともあった。1992年に共和党の支持は3割にも満たなかったが、2004年には4割を超え、一時拡大したが、今では当初の支持レベルまで戻っている。

注目に値するのは、第一世代の華僑や韓国系移民は、早くには反社会主義で熱心に労働したため、共和党を支持する傾向にあったが、

⁴ 選挙人のロックとは、ある州が一つの政党の鉄板選挙区になることを指す。米国大統領選挙制度は、候補者が当該州の普通票を一票でも多く獲得すれば、同州の全ての選挙人票を獲得できるため、こうした州では容易に競争がなくなり、一党独占の状況が生じる。民主党の現在の優勢については、以下を参照：Nate Silver, "As Nation and Parties Change, Republicans Are at an Electoral College Disadvantage," *New York Times*, November 9, 2012, <http://fivethirtyeight.blogs.nytimes.com/2012/11/08/as-nation-and-parties-change-republicans-are-at-an-electoral-college-disadvantage/>.

彼らの第二世代は個人の成長過程から、少数民族に比較的友好的な民主党支持へと回った。アジア系の有権者数はわずか2%に過ぎないが、米国で最も急速に人口を伸ばしているマイノリティーグループはアジア系で、且つその多くは新移民や未成年であるが、彼らが一旦投票権を獲得すれば、すでに5%を超える人口を有していることから、一定の影響力を発揮するであろう。1992年時点においては、僅か3割が民主党のクリントン候補を支持していたが、その4年後には4割、2000年には初めて5割を超えた。2008年の大統領選挙においては、62%がオバマに投票し、2012年の選挙では7割を超え、ちょうど20年前とは反対の割合となっている。加えて、この73%の支持率はヒスパニック系の民主党支持率をも上回るものである⁵。マイノリティーグループ票の流失を座視しては、共和党に勝機はないであろう。

第三に、ヒスパニック系人口の急速な成長が挙げられ、これは全国の総人口のみならず、選挙の鍵を握る浮動票が多い州でも同様である。ネバダ州、コロラド州、フロリダ州にヒスパニック系の支持者が多かったことがオバマ勝利の重要な一因である。人口の趨勢に変化がないと仮定した場合、浮動票が多いいくつかの州が安定するほか、現在共和党が強いアリゾナ州もまた、次期大統領選挙では民主党に転向して新たな浮動票州となり、共和党の鉄板選挙区である

⁵ Callum Borchers and Alan Wirzbicki, "Asian Americans Back Obama Overwhelmingly: Support by 73% Surpasses that of Latinos, Women," *The Boston Globe*, November 9, 2012, <http://www.bostonglobe.com/news/politics/2012/11/09/asian-americans-voted-more-heavily-for-barack-obama-than/gdcKynV3Hq3OgSeOINEhHM/story.html>; Shane Goldmacher, "Obama Overwhelmingly Won Asian-American Vote," *National Journal*, November 8, 2012, <http://www.nationaljournal.com/politics/obama-overwhelmingly-won-asian-american-vote-20121108>.

テキサス州でさえ、高まる民主党への支持・共鳴を軽視できなくなるであろう。

第四に、18-29歳の若い有権者層を見ると、オバマは6.7対3と圧倒的な支持を得ており⁶、中年層の30-44歳の有権者でも、52%の支持を獲得しており、ロムニー支持45%を7ポイント上回っている。米国も高齢化が進んでいるが、選挙研究の調査に基づく、投票行為は一つのアイデンティティーであり、一旦ある政党に慣れてしまうと、絶対多数の有権者は支持を変更することはほとんどなく、年配の共和党有権者がこの世を去ると、民主党にアイデンティティーを持つ年配の有権者が浮上してくるため、自ずと共和党に不利な状況になる。

最後に、米国大統領選挙で言われている「男女差」(Gender Gap)であるが、女性有権者の共和党支持率は、男性の支持率を大きく下回っており、これは共和党と民主党の女性票の違いといえる⁷。

⁶ Kevin Robillard, "Election 2012: Study: Youth Vote Was Decisive," *Politico*, November 7, 2012, <http://www.gallup.com/poll/158588/gender-gap-2012-vote-largest-gallup-history.aspx>.

⁷ 2008年の選挙をみると、男性票は1ポイントの僅差であったが、女性票ではオバマが13ポイントも上回ったため、12ポイント引き離し、圧勝した。2000年の選挙を見ると、女性票ではゴアがブッシュを11ポイント上回ったが、男性票ではブッシュが9ポイント上回ったため、男女の得票差は過去最高の20ポイントとなった。以下参照：Nate Silver, "When It Comes to Election-Year Gender Gaps, 2012 Ranks High," *New York Times*, October 21, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/10/22/us/politics/when-it-comes-to-election-year-gender-gaps-2012-ranks-high.html>；しかし、ギャラップ社の世論調査とは食い違っており、2008年の選挙は14ポイント差であったが、男性票の得票率は五分五分で、オバマは女性票の得票差から勝利を収めている。また、歴史上男女のポイント差が最も大きかったのは1984年の18ポイント差である。詳細は以下資料を参照のこと：Jeffrey M. Jones, "Gender Gap in 2012 Vote Is Largest in Gallup's History," <http://www.gallup.com/poll/158588/gender-gap-2012-vote-largest-gallup-history.aspx>.

2012 年の選挙では、オバマ大統領が獲得した男性票はロムニーより 8 ポイント低かったが、女性票ではロムニーを 12 ポイント上回り、男性有権者の得票差よりも高く、オバマを勝利に導いたほか、得票率の男女差としても過去最高を記録した⁸。注目に値する二つの関連データを見ると、一つは女性の寿命の長さによるかもしれないが、女性有権者数は男性より 6 ポイント多く、また独身女性のうち半数はオバマに投票していることから、男女差が縮小されない限り、共和党の劣勢はしばらく続くであろう。

四 議会選挙の変化

マイノリティーグループの議会選挙におけるパフォーマンスは非常に安定しており、四年前と比較してもたいした変化は見られないが、選挙後の一部議員の席次の調整は注目に値する。元々上院にはアフリカ系の上院議員は一人もおらず、オバマが当選したとき、彼は唯一のアフリカ系議員であった。オバマが大統領に当選後、空席を埋めるために任命されたローランド・バリス (Roland Burris) は唯一のアフリカ系議員であったが、バリス氏は 2010 年の選挙には参戦しなかったことから、第 112 議会にはアフリカ系の代表はいなくなった。有力なアフリカ系の候補者の参戦がなかったため、2012 年の選挙以降、何らの変化も生じていないが⁹、サウスカロライナ州選出のジム・デミント (Jim DeMint) が辞職して、ヘリテージ財団 (Heritage Foundation) の所長に就任する予定であるほか¹⁰、マサチューセツ

⁸ Jeffrey M. Jones, *ibid.*

⁹ Amanda Terkel, "Senate Likely to Remain without Black Members for Years," *The Huffington Post*, September 27, 2012, http://www.huffingtonpost.com/2012/09/27/black-senators_n_1914216.html.

¹⁰ Paul Kane and David Fahrenthold, "Jim DeMint Resigning from Senate to Head

州選出の上院議員ジョン・ケリー（John Kerry）が国務長官に就任したことを受け、アフリカ系議員がその空席に就いたため¹¹、第113議会には2名のアフリカ系上院議員がいる。サウスカロライナ州選出のティム・スコット（Tim Scott）は元々下院議員で、現在上院・下院のアフリカ系議員のうち、唯一の共和党所属である。マサチューセッツ州選出のモ・コーウェン（Mo Cowan）は州知事の幕僚長且つ腹心で、彼と下院39名の民主党アフリカ系下院議員と2名の代表はみな連邦議会黒人議員幹部会（Congressional Black Caucus）のメンバーであるが、スコット氏は政治的イデオロギーのため、これに参加していない。元々同会に参加していた共和党下院議員のアレン・バーナード・ウェスト（Allen West）が2012年の選挙で敗戦後、超党派メンバーで構成されてきた同グループは民主党の副次グループとなった。

共和党のキューバ系候補テッド・クルーズ（Ted Cruz）がマサチューセッツ州から上院議員に選出され、上院のヒスパニック系議員は3名となった。ほか2名は、2年前にフロリダ州から選出された共和党のマルコ・ルビオ（Marco Rubio）とニュージャージー選出の民主党議員ボブ・メネンデス（Bob Menendez）で、この他、ペンシルベニア州選出の上院議員議パット・トゥーミー（Pat Toomey）はポルト

Conservative Think Tank” *The Washington Post*, December 6, 2013, http://articles.washingtonpost.com/2012-12-06/politics/35649614_1_de-mint-senate-conservatives-fund-republican-senate-candidates.

¹¹ Jeff Zeleny, “Congressman Is Chosen to Succeed Jim DeMint as South Carolina Senator,” *New York Times*, December 17, 2012, http://www.nytimes.com/2012/12/18/us/politics/congressman-picked-for-south-carolina-senate-seat.html?_r=0; Aaron Blake, “Gov. Patrick Appoints Mo Cowan to Senate,” *The Washington Post*, January 30, 2013, <http://www.washingtonpost.com/blogs/post-politics/wp/2013/01/30/gov-patrick-to-appoint-mo-cowan-to-senate/>.

ガル系だが、共和党のヒスパニック議員会（Congressional Hispanic Conference）に参加している。下院についてみると、ヒスパニック系の議員数には大きな変化は見られず、共和党 1 名増、民主党 1 名減で、民主党のヒスパニック議員会（Congressional Hispanic Caucus）のメンバーは 21 名、共和党のヒスパニック議員会のメンバーは僅か 12 名で、基本的には両党に対するヒスパニック系の支持率を反映している。

アジア系の国会議員についてみると、ハワイ選出のダニエル・イノウエ（Daniel Inouye、日本名：井上建）が昨年末に逝去し、白人が引き継いだため、歴史上最多の 15 名が参加していたアジア太平洋系米国人議員会（Congressional Asian Pacific American Caucus、CAPAC）も現在では 14 名となり、うち、上院では今年アジア系初の女性議員メイジー・ケイコ・ヒロノ（Mazie Keiko Hirono、日本名：広野慶子）¹² がハワイから選出され、日系の上院議員は 3 名ードリス・マツイ（Doris Matsui）、マイク・ホンダ（Mike Honda、日本名：本田実）、コリーン・ハナブサ（Colleen Hanabusa、日本名：花房若子）ーとなった。両親が台湾出身である孟昭文（Grace Meng）はポスト趙美心（Judy Chu）として二人目の華僑女性上院議員である。大部分のアジア系議員はカリフォルニア、ハワイ、ニューヨーク、イリノイ、バージニア州からそれぞれ選出されているが、一部のアジア太平洋系米国人議員会のメンバーは一般的に言うところのアジア系ではなく、太平洋諸島出身の上院議員は選挙区のアジア系有権者に奉仕するために CAPAC に参加している。

マイノリティーグループの議員議席数が安定し小幅成長している

¹² 広野慶子は、初のアジア系米国上院議員。日本生まれで、仏教を信仰する上院議員としても初。

のに比べ、女性議員のパフォーマンスには輝かしいものがある。上院を見ると、マサチューセッツ州選出のエリザベス・ウォーレン（Elizabeth Warren）、ウィスコンシン州選出のタミー・ボールドウィン（Tammy Baldwin）¹³、ノースダコタ州選出のハイジ・ハイトキャンプ（Heidi Heitkamp）、ハワイ選出のケイコ・ヒロノ等、2012年に初当選した民主党の女性上院議員がおり、更にネブラスカ州選出の共和党の新上院議員デブ・フィッシャー（Deb Fischer）を加え、次回上院は新たに5名の女性新人議員を迎えることになる。第112議会においては女性の連邦上院議員が計17名おり、既に過去最高を記録している。2012年においては、メイン州選出のオリンピア・スノー（Olympia Snowe）とテキサス州選出のケイ・ベイリー・ハッチソン（Kay Bailey-Hutchison）が引退を表明したが、5名の新人を迎え、女性の上院議員数は過去最高の20名と、議会の五分の一を占めることになり、うち、16名が民主党、4名が共和党所属である¹⁴。下院の女性議員（投票権を持たない3名の代表も含む）もまた過去最高の81名で、両院合わせると女性議員は既に100名を超える。

20年前、クリントン大統領が初当選した際、女性の上院議員は、メリーランド州選出のバーバラ・ミカルスキ（Barbara Mikulski）とカンザス州選出のナンシー・カサバウム・ベイカー（Nancy Kassebaum Baker）の2名しかいなかったが、1992年の選挙で歴史的な突破を果たした。カリフォルニア州選出のダイアン・ファインスタイン（Dianne Feinstein）とバーバラ・ボクサー（Barbara Boxer）、イリノイ州選出のキャロル・モスレー・ブラウン（Carol Moseley-Braun）、

¹³ タミー・ボールドウィンは、上院初の同性愛者の議員。

¹⁴ Suzi Parker, "Women Make Historic Gains in the U.S. Senate," *Washington Post*, November 7, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/she-the-people/wp/2012/11/07/women-make-historic-gains-in-the-u-s-senate/>.

ワシントン州選出のパティ・マリー（Patty Murray）等 4 名の候補者が同時に当選し、女性上院議員数が一気に 3 倍になり、政治評論家は 1992 年を「女性年」（Year of the Women）と呼んだ。これ以降、女性議員数は安定的に成長し、2000 年に初めて二桁を突破し、今年 は 20 名に達した。

1992 年当時、女性下院議員数は僅か 30 名で全体の 7% に満たなかったが、「女性年」の選挙で 6 割増の 48 名になった。2000 年の大統領選挙で初めて 60 名を超え、2012 年には 80 名に迫り、女性議員の割合は 18% に達した。ヨーロッパでは 3-4 割強が女性議員であり、これに比べると上院女性議員はまだ少ないが、それでも大きな進展があったと言える。

また、連邦議会の女性議員は、数及びその割合において過去最多を記録しただけではなく、更に驚くべきことには、ニューハンプシャー州の新人の 2 議員－キャロル・シェイポーター（Carol Shea-Porter）、とアン・マクレーン・クスター（Ann McLane Kuster）、及び新州知事マギー・ハッセン（Maggie Hassan）がいずれも女性であり、更に 2 名の女性上院議員－ジーン・シャヒーン（Jeanne Shahien）とケリー・エイヨット（Kelly Ayotte）らを加え、一つの州において最も実力のある 5 名の政治家がみな女性であるのは史上初めてのことである。米国の女性の政治力の増長、またその多くが民主党の議員であることは、共和党にとっては大きな課題である。

五 閣僚メンバーと司法システムの変化

マイノリティーグループと女性有権者の支持を得たオバマ大統領は、第一期政権の閣僚メンバーにも、多くのマイノリティー、女性らの代表メンバーを登用した。華僑のゲイリー・フェイ・ロック（Gary F. Locke）及びスティーブン・チュー（Steven Chu）をそれぞれ商務

長官、エネルギー長官に任命し、日系のエリック・ケン・シンセキ（Eric K. Shinseki）を退役軍人長官、アフリカ系のエリック・ハンブトン・ホルダー（Eric H. Holder）を司法長官、ヒスパニック系のケネス・リー・サラザール（Kenneth Lee Salazar）を内務長官としたほか、ヒラリー・クリントン（Hillary Clinton）、キャスリーン・セベリウス（Kathleen Sibelius）、ジャネット・ナポリターノ（Janet Napolitano）、ヒルダ・ソリス（Hilda L. Solis）の女性4名をそれぞれ国務長官、保健福祉長官、国土安全保障長官、労働長官に任命した。うち、ヒスパニック系のソリスは女性であり、マイノリティーでもある。言い換えれば、15名の閣僚メンバー中、9名がマイノリティーグループか女性であり、史上初めて白人男性の閣僚メンバー数が過半数以下となった。

国家安全保障問題担当補佐官、ホワイトハウス法律顧問、経済政策担当補佐官、通商代表、国連大使、環境保護庁長官、行政管理予算局長官、大統領補佐官等八つの内閣レベルの人事も考慮すると、マイノリティーグループ及び女性の数は13名と過半数を超えている。その内訳は、女性7名（うち1名はアフリカ系）、アジア系3名、ヒスパニック系1名、アフリカ系3名で、オバマ大統領の有権者層を十分に反映している。

オバマ大統領は米国史上初めてヒスパニック系のソニア・ソトマヨール（Sonia Sotomeyer）を連邦最高裁判事に任命し、退職する女性判事サンドラ・デイ・オコナー（Sandra Day O'Connor）の後任とした。オバマがエレナ・ケイガン（Elena Kagan）も最高裁判事に任命したことから、最高裁判事9名中、3名が女性と、これまた過去最高を記録した¹⁵。

¹⁵ Warren Richey, "Obama Cites 'Temperament' of Kagan, Supreme Court Nominee,"

実際、オバマ政権第一期任期中に任命、或いは上院を可決した各級の判事のうち、37%は白人でなく、これはブッシュ政権の19%の2倍であり、クリントン政権の27%をも上回っている。女性についてもしかりで、オバマ政権第一期で任命した各級の判事のうち、42%が女性であり、同様にブッシュ政権の21%の2倍、クリントン政権の30%を上回っている。台湾人についてみると、台湾からの移民華僑である劉弘威（Goodwin Liu）は、リベラリズムの色彩が強すぎたため、共和党保守派の上院議員に封じこまれ、最終的には選挙戦から撤退させられた¹⁶。どのような形であれ、有色人種や女性が法システムに参加し、各連邦裁判所の判事に就任したことから、将来的には、資格を具えた十分な数のマイノリティーグループや女性が最高裁判事にノミネートされ、政治的な考慮なしに、その専門性に基づき任命されるようになるであろう。

六 共和党は如何なる調整を行うべきか

共和党は徐々に男性、白人、高齢者の支持を主とする政党となり、女性、マイノリティーグループ、若者層からの求心力を失っている¹⁷。こうした有権者の割合が上昇し続ける状況下で、現在の政策を調整できない場合、共和党は長期間にわたって野党とならざるを得ない可能性もある。

Christian Science Monitor, May 10, 2010, <http://www.csmonitor.com/USA/Justice/2010/0510/Obama-cites-temperament-of-Kagan-Supreme-Court-nominee>.

¹⁶ Nina Totenberg, "Obama Judicial Pick Goodwin Liu Withdraws," *National Public Radio*, May 25, 2011, <http://www.csmonitor.com/USA/Justice/2010/0510/Obama-cites-temperament-of-Kagan-Supreme-Court-nominee>.

¹⁷ Michael Cooper, "G.O.P. Factions Grapple Over Meaning of Loss," *New York Times*, November 7, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/11/08/us/politics/obama-victory-causes-republican-soul-searching.html>.

冷静に考えるならば、或いは共和党の政治家でさえ理解できないかもしれないのは、なぜ伝統的に家庭の価値や社会道徳を強調してきた政党が、女性やマイノリティーグループの支持を得られないかということであろう。彼等はこうした訴えには反対ではないはずであり、例えば、ヒスパニック系の有権者の大多数はカトリック教徒で、カトリック教会は墮胎について強い反対の立場をとっている。これらヒスパニック系の有権者は名ばかりのカトリック教徒であり、その宗教への信仰は真剣なものではないのであろうか。

アジア系の多くも伝統的に家庭の価値を重視しており、米国では異なる生活方式についても寛容であるが、彼等は同性結婚の合法化には賛同しないはずである。経済問題についてみても、一部のアジア系は元々非常に勤勉で、熱心に働き、社会福祉や大きな政府、課税を強調する民主党の政見に賛同するとは限らない。女性有権者は子どもの教育に関心を払い、教会にも比較的熱心に参加しており、彼女らは共和党が主張する教育バウチャー（School Voucher）、即ち子女を教会の学校に送り勉強させるという政府手当にも賛同するはずである。

言い換えれば、ヒスパニック系は共和党の移民政策を受け入れられない可能性があり、アジア系もまた白人のアイデンティティーを支持するとは限らず、女性は銃規制反対の立場を受け入れられないかもしれないが、これは共和党の核心的な価値に、こうした有権者を引きつけられるところがないことを意味しない。共和党は、マイノリティーや女性が不支持とする理由を超越する、或いはこれのできる限り押さえ込み、如何にして核心的価値への賛同を得るか検討すべきである。

現在、こうしたマイノリティーグループ・女性有権者が民主党を支持している主な理由は、同党が文化の多様性を認めているからで

ある。マイノリティーグループや女性は、民主党は比較的人種差別や女性差別がない政党であると考えているほか、更に重要なことには、民主党が積極的差別是正措置（Affirmative Actions）を推進し、過去の社会によって作られた不平等を補おうとしていることにある。女性、アフリカ系、ヒスパニック系、アメリカ原住民のインディアンはみな積極的差別是正措置を通じて、教育・就労の機会を獲得し、白人男性との経済的な格差を是正することを優先に考えている。オバマ政権において初めて署名された法案は、性別等を理由とする賃金差別を受けた女性が雇用主を提訴する法の不遡及期間を延長し、性別を問わず同じ労働には同額の報酬を支払うと定めた平等給与法案（レッドベター法案、Lilly Ledbetter Fair Pay Act）であり、ここからもオバマがなぜ女性有権者の高い支持を得ているか説明できる。多くの家庭では、女性の収入はすでに重要な一つの収入源となっており、同法案は特に社会的公義を十分に示すものである。

給与と関連するのが保険であり、米国の保険制度では、これまで雇用主が責任を負うか、手当を支給するかしてきたが、正社員でない場合、基本的に雇用主は福利とみなされる健康保険を支払わない。同時に、失業した中間層・貧困層の米国人からすれば、無職になると収入がないばかりか、健康保険が中断されてしまうため、事故や深刻な病気にかかった場合、破産に直面するため、共和党やオバマが推進する国民皆保険法に反対する者は、しっかりと監督責任を果たすべきであろう。

七 選挙後の発展

次の第 113 議会では、民主党が上院で多数を占め、同院の 20 の委員会の委員長も少なくとも 6 名が女性と男女比を十分に反映している。共和党には元々 5 名の上院議員がおり、うち 4 名がそれぞれ商務

委員会 (Commerce Committee)、国土安全保障委員会 (Homeland Security Committee)、エネルギー委員会 (Energy Committee)、中小企業委員会 (Small and Medium Business Committee (のランキングメンバー (Ranking Member) である。2名の委員が退職後、新しい議会では4名の共和党議員が籍をおくが、2名は少数党代表者のランキングメンバーであり、依然として代表性を具えている。

しかし、他方の下院は全く異なる発展を見せている。民主党は少数党であるが、19の常設委員会 (Standing Committees) のうち、半数以上のランキングメンバーは女性かマイノリティーのバックグラウンドを持っており、最も人気の議事規則委員会 (Rules Committee)、歳出委員会 (Appropriation Committee)、金融委員会 (Finance Committee)、司法委員会 (Judicial Committee) も然りで、民主党少数党指導部のナンシー・ペロシ (Nancy Pelosi) は史上初めて白人男性が少数になったと表明した¹⁸。

共和党の下院議長であるジョン・ベイナー (John Boehner) は、選挙後の11月末に第113議会の19の委員会の委員長リストを発表し、メディアの注目を集めた。委員長がいずれも白人男性で、1名の女性も (共和党の女性下院議員は20名)、1名のマイノリティーグループ出身者もいなかったからである¹⁹。この他、ポストが未発表であった委員会委員長も女性でもマイノリティーグループ出身者でもなかった。

¹⁸ Ed O'Keefe, "House Democrats Tout Diversity in the Ranks," *The Washington Post*, December 5, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/2chambers/wp/2012/12/05/house-democrats-tout-diversity-in-the-ranks/>.

¹⁹ Jennifer Bendery, "House GOP Committee Chairs Will All Be White Men in Next Congress," *Huffington Post*, November 27, 2012, http://www.huffingtonpost.com/2012/11/27/house-committee-chairs-all-white-men_n_2201136.html.

上院では数年前に委員長ポストの終身制を止め、三期6年制としたが、持ち回りの制度のため依然として年功序列（Seniority）が考慮される。言い換えれば、ある委員会の委員長が満期で退任する場合、同委員会で最もシニアの同党の委員が後任になる可能性が極めて高いが、下院議長と多数党指導部がその意志を貫き、彼らが望む人選が可決されるよう要求することもできる。例えば、共和党副大統領候補であったポール・ライアン（Paul Ryan）は予算の専門家であり、これまでに3期予算委員会の委員長を務めており、規則に則れば再任はできないが、特別に批准され、留任が決まった²⁰。これは当然、ジョン・ベイナー議長とオバマ大統領が予算をめぐる駆け引きを展開する上で、ライアンの専門性を必要としたからである。

共和党では、台湾でもよく知られている外交事務委員会のイリアナ・ロス・レイティネン（Ileana Ros-Lehtinen）を含め、2012年に7つの委員会の委員長が任期満了を迎えた。しかし、女性で、且つヒスパニック系であった委員長の退任後、選出された委員長はみな白人男性であった。当然ながら、女性で且つヒスパニック系である共和党下院議員の経験が不十分であることとも関係しているが、ジョン・ベイナー議長は少なくとも1名は女性の委員長を送り込むことができたであろう。

各界が男性の委員会委員長リストを厳しく批判したからかもしれないが、ジョン・ベイナー議長は、ミシガン州選出のキャンディス・ミラー（Candice Miller）を元々委員会メンバーでないにもかかわらず、比較的負担の少ない上院運営委員会（House Administration

²⁰ Billy House, "Paul Ryan Receives Waiver to Allow Him to Continue Serving as House Budget Chairman," *National Journal*, November 14, 2012, <http://www.nationaljournal.com/congress-legacy/paul-ryan-receives-waiver-to-allow-him-to-continue-serving-as-house-budget-chairman-20121114>.

Committee)の委員長に任命し、紅一点とした²¹。ベイナー議長に先見の明があったなら、ミラーが熱望していた国土安全保障委員会の委員長に就任できるようサポートすべきで、暫定的に二級クラスの委員会の委員長ポストを用意する必要はなかったであろう。元々、各界は大統領選及び議会選挙で挫折した共和党は、特に女性やマイノリティー有権者のイメージ改善に努めるものと期待されたが、新しい下院の各委員会委員長リストの発表、これに続くベイナー議長の対応からすると、共和党は敗戦の理由を全く分かっていないと言わざるを得ない。

政府についてみると、オバマ政権第一期においてはヒラリー・クリントン国務長官が内閣でも最も目を引く重要人物であった。二期目、オバマ大統領は当初、スーザン・ライス(Susan Rice)国連大使を国務長官に任命しようとしたが、重鎮の上院共和党議員の反対に遭い、最終的にはこれを諦め、ジョン・ケリーを任命した²²。その他の長官人事をみると、商務長官であったゲイリー・フェイ・ロックを米駐中国大使に任命したが、もう一人の華僑でエネルギー長官であったスティーブン・チューは辞任し学术界に復帰した。後任がマイノリティーや女性でなかったことから、行政部門の進展が後退するのではとも懸念されている。

ライスが国務長官に就任せず、最も重要な内閣ポストが16年ぶり

²¹ Ed O'Keefe, "House Republicans Will Have One Woman Committee Chair," *The Washington Post*, November 30, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/2chambers/wp/2012/11/30/house-republicans-will-have-one-woman-committee-chair/>.

²² Mark Landler, "Rice Ends Bid for Secretary of State and Fight with G.O.P.," *New York Times*, December 13, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/12/14/us/politics/rice-drops-bid-for-secretary-of-state-white-house-says.html?pagewanted=all&gwh=68A7AAB31D3B516ADA5EA1EABD14A175>.

に白人男性の手に戻り、加えてソリス労働長官が辞任し、女性閣僚は 4 名から 2 名となった。オバマはキャスリーン・セベリウス保健福祉長官、ジャネット・ナポリターノ国土安全保障長官の続投を決め、元長官も女性であった環境保護庁長官にはジーナ・マッカーシーを任命したほか、ライスには上院の同意が必要ない国家安全保障問題担当補佐官の席を用意する可能性もある。人事案のとりまとめが進むが、オバマ政権第二期内閣においてはマイノリティーや女性に機会が与えられる可能性がさほど大きくないのは確かであろう。

八 まとめ

共和党は、移民法、積極的差別是正措置、国民皆保険といった問題において調整しなければ、マイノリティーや女性有権者からの支持を獲得することは難しい。共和党は、ハイクラスの政党とみなされていることから、中間層や貧困層が関心を寄せる問題に取り合わず、また中間層における女性の割合が男性を超えているという基本的事実を認識せず、家庭の価値や道徳的問題に一縷の望みを託して有権者をひきつけようとしても、機会がないどころか、ますます困難になるばかりであろう。

ルーズベルト大統領がニューディール政策を提出すると、アフリカ系は民主党支持に回り、1970 年代、共和党が男女平等憲法修正条項 (Equal Rights Amendment) に反対すると、女性有権者が徐々に流出した。しかし、共和党がかつてリンカーンの指導の下、奴隷解放を行い、19 世紀末、20 世紀初頭には、女性参政権運動 (Women's Suffrage) を支持した政党であることは忘れてはならない。これらが栄光なる歴史に過ぎないとしても、再びこうしたマイノリティー・女性有権者の支持を獲得することも可能なわけであり、重要なのは単なるスローガンやスタイルではなく、実際に政策を調整すること

である。

アジア系についてみると、20年の安定した移動を経て、アジア系はすでに民主党の欠かせない政党基盤となっている。アジア系は当然ながら一つの同質的な(Homogeneous)グループではなく、東アジアの日系、韓国系、華僑の他、東南アジアのフィリピンやインドシナ半島、ひいてはインド及びパキスタンからの移民や子孫もいる。移民のバックグラウンドや経験が異なるだけでなく、イデオロギーも異なり、更に、政府の役割についての考えが必ずしも一致していないことも重要である。

このような複雑なグループの共和党に対する支持が年々低下しているのはなぜだろうか。アジア系有権者の投票動向が転向したことは明らかで、第二世代、第三世代の有権者が増加していることとも関係している。後者は若者であるというだけでなく、異なる成長過程を持ち、マイノリティーに比較的友好的な民主党にアイデンティティーを求めやすいため、元々の異質性(Heterogeneous)からくる影響力が徐々に影を潜めているのであろう。

当然、アジア系以外にも、民主党の政党基盤にはリベラル派の白人、アフリカ系、ヒスパニック系、同性愛者、都市部の住民などが含まれる。しかし、米国の選挙政治からすれば、2012年の大統領選挙は政党再編成選挙ではなかったとしても、一つの脱編成選挙であったといえるだろう。共和党が更に下院の議員を失い、大統領選や上院の議席数で突破できず、民主党が統一政府(Unified Government)となった時が本当の政党再編成となるかもしれない。

翻訳：池畑裕介（文化大學推廣教育部日本語専任講師）

（寄稿：2013年3月6日、採用：2013年4月11日）

從美國總統選舉的人口結構改變及 性別差距看兩黨政治結盟的變化

嚴震生

(臺灣·國立政治大學國際關係研究中心美歐所研究員)

【摘要】

在經濟仍然低迷及對在任者極為不利的高失業率情況下，歐巴馬總統順利贏得連任，顯然經濟議題不見得能夠主導選舉的走向。二〇一二年的選舉結果所顯示的重要意涵，就是美國選舉人團制度、人口結構的改變、及性別差距，為民主黨候選人能夠獲勝的原因。民主黨在少數族裔、女性、年青族群、自由派、及支持同性戀權益的選民中，占有絕對的優勢，而亞裔在近年總統大選中，由七成支持共和黨轉為七成支持民主黨，也讓兩黨政治結盟出現變化，我們甚至可以將去年的總統選舉定義為亞裔的重組選舉。

關鍵字：重組選舉、選舉人鎖、性別差距、少數族裔結盟

Examination of Transformation of Intraparty Coalitions Based on the Demographic Structural Change and Gender Gap in Recent American Presidential Elections

Chen-Shen Yen

Research Fellow, Division of American and European Studies
Institute of International Relations, National Chengchi University

[Abstract]

Barack Obama won re-election despite having to deal with a stagnating economy and a record high unemployment rate. The election result is a repudiation of the argument that the economy usually dominates and determines the presidential election. What the result of 2012 Presidential election reveals is that the electoral college system, demographic change, and gender gap are the main reasons that the Democratic Party candidate was victorious. The Democratic Party now enjoys advantage among the minorities, women, youth, liberals and supporters of gay rights. Asian Americans who used to vote 70% for the Republicans are now voting 70% for the Democrats, leading to a change within the party coalition. We can even claim that last year's presidential election is a re-aligning election for Asian Americans.

Keywords: Re-aligning Election, Electoral Lock, Gender Gap, Coalition of Minorities

〈参考文献〉

- Bendery, Jennifer, "House GOP Committee Chairs Will All Be White Men in Next Congress," *Huffington Post*, November 27, 2012, http://www.huffingtonpost.com/2012/11/27/house-committee-chairs-all-white-men_n_2201136.html.
- Blake, Aaron, "Gov. Patrick Appoints Mo Cowan to Senate," *The Washington Post*, January 30, 2013, <http://www.washingtonpost.com/blogs/post-politics/wp/2013/01/30/gov-patrick-to-appoint-mo-cowan-to-senate/>.
- Borchers, Callum, and Wirzbicki, Alan, "Asian Americans Back Obama Overwhelmingly: Support by 73% Surpasses that of Latinos, Women," *The Boston Globe*, November 9, 2012, <http://www.bostonglobe.com/news/politics/2012/11/09/asian-americans-voted-more-heavily-for-barack-obama-than/gdcKynV3Hq3OgSeOINEhHM/story.html>.
- Burnham, Walter Dean, *Critical Elections and the Mainsprings of American Politics* (New York: W. W. Norton, 1971).
- Cooper, Michael, "G.O.P. Factions Grapple Over Meaning of Loss," *New York Times*, November 7, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/11/08/us/politics/obama-victory-causes-republican-soul-searching.html>.
- Goldmacher, Shane, "Obama Overwhelmingly Won Asian-American Vote," *National Journal*, November 8, 2012, <http://www.nationaljournal.com/politics/obama-overwhelmingly-won-asian-american-vote-20121108>.
- House, Billy, "Paul Ryan Receives Waiver to Allow Him to Continue Serving as House Budget Chairman," *National Journal*, November 14, 2012, <http://www.nationaljournal.com/congress-legacy/paul-ryan-receives-waiver-to-allow-him-to-continue-serving-as-house-budget-chairman-20121114>.
- Jones, Jeffrey M., "Gender Gap in 2012 Vote Is Largest in Gallup's History," <http://www.gallup.com/poll/158588/gender-gap-2012-vote-largest-gallup-history.aspx>.
- Kane, Paul, and Farenthold, David, "Jim DeMint Resigning from Senate to Head Conservative Think Tank" *The Washington Post*, December 6, 2013, http://articles.washingtonpost.com/2012-12-06/politics/35649614_1_de-mint-senate-conservatives-fund-republican-senate-candidates.
- Key, V. O., "A Theory of Critical Elections," *Journal of Politics*, Volume 17, Number 1 (February 1955), pp. 3-18.
- Landler, Mark, "Rice Ends Bid for Secretary of State and Fight with G.O.P.," *New York Times*, December 13, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/12/14/us/politics/rice-drops-bid-for-secretary-of-state-white-house-says.html?pagewanted=all&gwh=68A7AAB31D3B516ADA5EA1EABD14A175>.
- Nagourney, Adam, Parker, Ashley, Rutenberg, Jim, and Zeleny, Jeff, "How a Race in the Balance

- Went to Obama,” *New York Times*, November 7, 2013, <http://www.nytimes.com/2012/11/08/us/politics/obama-campaign-clawed-back-after-a-dismal-debate.html?pagewanted=all>.
- O’Keefe, Ed, “House Democrats Tout Diversity in the Ranks,” *The Washington Post*, December 5, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/2chambers/wp/2012/12/05/house-democrats-tout-diversity-in-the-ranks/>.
- _____, “House Republicans Will Have One Woman Committee Chair,” *The Washington Post*, November 30, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/2chambers/wp/2012/11/30/house-republicans-will-have-one-woman-committee-chair/>.
- Parker, Suzi, “Women Make Historic Gains in the U.S. Senate,” *Washington Post*, November 7, 2012, <http://www.washingtonpost.com/blogs/she-the-people/wp/2012/11/07/women-make-historic-gains-in-the-u-s-senate/>.
- Richey, Warren, “Obama Cites ‘Temperament’ of Kagan, Supreme Court Nominee,” *Christian Science Monitor*, May 10, 2010, <http://www.csmonitor.com/USA/Justice/2010/0510/Obama-cites-temperament-of-Kagan-Supreme-Court-nominee>.
- Robillard, Kevin, “Election 2012: Study: Youth Vote Was Decisive,” *Politico*, November 7, 2012, <http://www.gallup.com/poll/158588/gender-gap-2012-vote-largest-gallup-history.aspx>.
- Silver, Nate, “As Nation and Parties Change, Republicans Are at an Electoral College Disadvantage,” *New York Times*, November 9, 2012, <http://fivethirtyeight.blogs.nytimes.com/2012/11/08/as-nation-and-parties-change-republicans-are-at-an-electoral-college-disadvantage/>.
- _____, “When It Comes to Election-Year Gender Gaps, 2012 Ranks High,” *New York Times*, October 21, 2012, <http://www.nytimes.com/2012/10/22/us/politics/when-it-comes-to-election-year-gender-gaps-2012-ranks-high.html>.
- Terkel, Amanda, “Senate Likely to Remain without Black Members for Years,” *The Huffington Post*, September 27, 2012, http://www.huffingtonpost.com/2012/09/27/black-senators_n_1914216.html.
- Totenberg, Nina, “Obama Judicial Pick Goodwin Liu Withdraws,” *National Public Radio*, May 25, 2011, <http://www.csmonitor.com/USA/Justice/2010/0510/Obama-cites-temperament-of-Kagan-Supreme-Court-nominee>.
- Zeleny, Jeff, “Congressman Is Chosen to Succeed Jim DeMint as South Carolina Senator,” *New York Times*, December 17, 2012, http://www.nytimes.com/2012/12/18/us/politics/congressman-picked-for-south-carolina-senate-seat.html?_r=0.